

地震対策

わが家を安全な場所にしましょう

家の中の安全対策

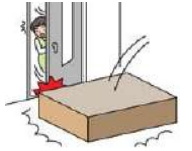
▶家具を安全に配置する

- できるだけ人の出入りが少ない部屋に家具をまとめる。寝る部屋に家具を置く場合は、体の上に倒れてこないように配置する。



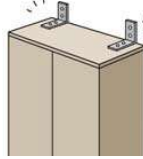
▶通路や出入り口に荷物を置かない

- いざというときの避難路を確保するために、通路や出入り口にはできるだけ荷物を置かないようにする。



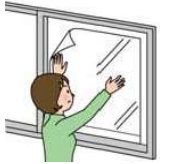
▶家具の転倒や落下を防止する措置をとる

- 家具と壁や柱の間に空間をつくらない。またL字型金具や重ね留め用金具、家具の転倒防止シートなどを利用して転倒や落下を防ぐ。



▶窓ガラスに飛散防止フィルムをはる

- 窓はもちろん、食器棚や額縁などに使われているガラスにも忘れずに飛散防止フィルムをはる。



住宅の耐震診断について

平成7年の阪神・淡路大震災では、倒壊した建物や家具に押しつぶされて亡くなった人が、犠牲者全体の約8割を占め、壊れた建物の多くが昭和56年以前の「旧耐震基準」で建てられた古い木造住宅でした。

耐震診断は、こうした昭和56年以前の旧耐震基準で建てられた建物について、大地震に対してどの程度強度（耐震性）があるかを調べる診断作業のことです。

インターネットで今すぐ診断

「誰でもできる
わが家の耐震診断」

(一財)日本建築防災協会

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp>

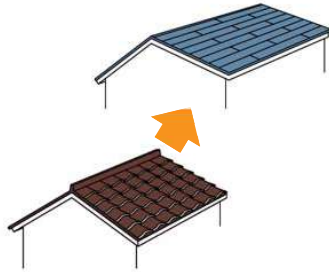
住宅の耐震補強について

耐震診断の結果、耐震性に問題があった場合は補強工事が必要となってきます。下記に耐震補強工事の主な方法を示していますので、わが家に最も適した工事方法を選び、耐震補強を行いましょう。

耐震補強工事の一部紹介

屋根の耐震化

軽い材料の屋根に替えることで、耐震性UP!



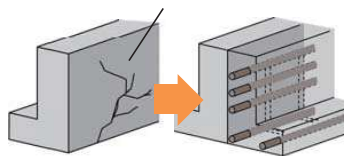
耐震化については、耐力壁などの上部構造各部の補強全体で考えましょう。

建物の基礎を補強

基礎の補強で建物の性能UP!

無筋コンクリートは耐久性に乏しく崩壊しやすい。

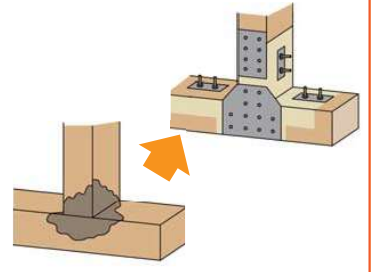
ひびの入った基礎は樹脂などを注入して補強



新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせます。

腐朽部分を補強

腐朽部分は新しいものと交換しよう!



劣化した部材を部分的に取り替えた場合、接合部が弱点にならないように補強しましょう。

大分市では、耐震診断・耐震改修（補強）費用の一部を補助しています。昭和56年5月以前に建てられた木造住宅で耐震化を検討される際は、下記問い合わせ先へご相談ください。

●問い合わせ先 開発建築指導課 直通電話：097-537-5635